第 2016-49 号

# 恵みと真理のニュース

2016 年 12 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## ［証］　娘たちがイエス様を信じる家庭で嫁に行く願いが神様の恵みで成し遂げられました

私はイエス様を信じない家庭で2男5女の中で三番目の娘で生まれました。

性格が肯定的で誠実な親の影響であまり難しくなくて周りの大人から褒められて育ちました。結婚する時期になって自分が好きな人に出会って結婚しました。

旦那は性品が正しくて親孝行がふかくて経済的にもビジョンがありました。私の思い通り旦那は家庭の経済には責任と義務を尽くしました。どころが、結婚の前にはよく見えった性格がじっさいに結婚してみると私とよく合わなくて二人で様々なところで問題がありました。旦那がお金に欲と執着してよくケンカをしました。

そのように精神的に疲れる時に隣の家に住む恵みと真理教会の区域長が私を熱心に伝道しました。旦那の迫害があるのは当たり前でしたが、当時生きる意味もなかったので神様と教会に関心が出来ました。ばら撒くように区域長に一回だけ教会に行ってみるとしました。旦那が会社にいるあいだ水曜日に区域長をついて礼拝に参席しました。教会に行って礼拝を捧げた日、理由もなく気分が良かったです。それで 、二回三回教会に行きました。賛美を歌うのが楽しかったです。まだ、信仰がなかったですが家族の健康と生活のため祈ることも好きでした。私の心が平安になり今まで世の中で経験したことのない感情を感じました。しかし、しばらくは教会に行ったり行かなかったり繰り返しました。まだ、救いの恵みと真理と神様の存在に対する確信がなかったからです。また、赤ちゃんの娘を育てるので忙しかったです。水洗礼式を前もって旦那の反対と迫害を覚悟して主日礼拝も参席するようになりました。熱心に礼拝に参席して牧師が伝えてくださる説教を聴き教会の様々な集いと祈り会い参与して救いの確信を得て、神様に対する信仰が育ちました。そうしながら、区域長の職分を受けました。二番目の娘を産んで子供二人を連れて熱心に教会に通いました。旦那の救いのため神様に祈りました。 旦那は気分が良い日に車で私を教会まで連れて行ってくれました。それだけでも神様に感謝しました。首区域長と区域長達が私の信仰生活に大きく助けてくださいました。そのごろ私に切ない希望が出来ました。息子がほしかったです。それで、休まずに神様に祈ると神様が答えてくださいました。

3ン人の子供が育つのを見るとほかの祈り課題が出来ました。子供達が私のように長い間イエス様を知らないまま時間を無駄に使って不信家庭で嫁に行って大変に信仰生活をしないように、子供の時から信仰生活をよくしてイエス様をよく信じる家庭の子と結婚し信仰の家庭を作るのが希望です。それで、子供たちが主の中で育つように力を出しました。祈りで教え教育しました。"勉強はできなくても良い、しかし、イエス様を受け入れて主と共に生きるのが人生の一番成功である。と子供たちを熱心に教会学校で連れて行きました。主の愛で子供がよく育ちました。

長女が幼稚園教師になってまもなく、ある日は私が市場に行って主が用意してくださった青年に出会いましました。初めて見る青年と挨拶をしました。誰だと聞いたら恵みと真理の幼年部の教師として奉仕しているとしました。そして母も一緒に来たと青年のお母さんを紹介してくれました。挨拶をしてみると私の家の近くに住む区域長でした。

一緒に市場で物を買いながらその青年が気に入りました。教会で熱心に奉仕して信仰も良くて母と一緒に買い物をする親孝行するのも気に入りました。いろいろ話をして区域長と息子に娘を紹介してついに娘と付き合って結婚しました。私の願いの通りイエス様をよく信じる家庭で嫁にいきました。

相舅も熱心に教会を仕えて聖徒のため奉仕し親切にしてくれて感謝です。娘が足りないけど愛してくれます。長女が結婚して旦那の仕事で私の夫婦は三番目の息子をついて中国で暮らすようになりました。そして、ある日、韓国に残っている二番目の娘から青年を紹介してもらって付きあっていると聞きました。初めは心配したが、私がよく知る勧士の孫でした。顔も見たこともないが青年ですが、誠実で祈りを熱心にし模範的な勧士の孫だったので安心しました。勧士はいつも白い麻の服をよく着て笑顔で親切に接してくださいました。勧士の家で区域長の祈り会をすると勧士が大きい部屋におられ、息子たちは小さい部屋にいました。私はその姿を見て家の家風が素晴らしく職場生活をしている嫁の性格も良く思いました。そして、そんな家庭の子供だと見なくても良いと思いました。当時中国からアメリカに出張に行った旦那も顔も見なくて私が話をしたのを聞いただけで二番目の娘が勧士の孫と結婚の前提に交際するのを許可しました。そして、二番目の娘も私が祈った通り信仰の家庭で結婚しました。いま、勧士は天国に行って、 相舅も按手執事として熱心に教会を仕えて生活をしています。

息子は海外で勉強して帰って来て高校1年に在学しているが、教会学校の高等部の委員として奉仕しています。息子も信仰生活をするように恵みをくださる主に感謝します。旦那の救いのため二人の娘達の 相舅も気を使って祈っています。旦那は相舅に海外勤務を終えて韓国に戻るなら教会に行く約束をしました。この約束を守るように祈ります。子供たちのために切に祈った祈りを聴いてくださり答えてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。

あなたがたを罪に陥らないように守り、また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、栄光に輝く御前に立たせることができる方、 わたしたちの救い主である唯一の神に、わたしたちの主イエス.キリストを通して、栄光、威厳、力、権威が永遠の昔から、今も、永遠にいつまでもありますように、アーメン。

## ［信仰コラム］　驚くべきで特異な運命

**"隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表わされたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し...."（申命記 29：29）**

聖書を通じて神様を知って信じるようになると特異な運命論者になります。聖書に啓示された神様は全能な創造主であり、ご自分の思い通りに何でもできる絶対主権者でおられます。神様の予定と選びに関して私達が知っているのはとても少ないです。しかし、神様の予定には人間の自由意志が及ぶことができない分野がある反面、人間の自由意志が及ぶことができる分野もあります。私達は人間の自由意志が及ぶことができない分野と人間の自由意志が及ぶことができる分野が何であるかを知ってこれを通じて当面する事事に対して最善の選択と決定をし、積極的な行動を取るべきであります。

イエス様が弟子達と共に最後の晩餐を行った後にオリブ山に行きながら"今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう"と言われました。そして"たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません"と確信を持って言うペトロに"よくあなたに言っておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないというだろう"と予告なさいました。イエス様がペトロに今後展開されることを予告なさったのはその事に当面した時に最善の選択と決定をするように勧告なさったのです。

イエス様はイスカリオテのユダについて"あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それだのに、あなたがたのうちのひとりは悪魔である""そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである"と言われながら彼が何事を計画していて進行するかを何回も重ねて予告なさいました。

弟子達と共にオリブ山のゲツセマネに行かれイエス様は汗が血の滴りのようになって地に落ちる程度でお祈りをする状況で弟子達は居眠りをしていました。これは"今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう"と言われた主のお言葉に対して彼らが無感覚な状態であることを表しています。大祭司長と書記官、長老から送られた群れがイスカリオテのユダのイエス様に対する接吻を信号でイエス様を捕まえると恐れに捕らわれた弟子達は逃げてしまいました。

ペトロとイスカリオテのユダはイエス様から彼らがいかなる状況に処されてどのように行うかを予告なさるお言葉を聞きました。それは彼らに予定されたことでありました。しかし、違えて行動することができないように運命づけられたことではありませんでした。イエス様が予め彼らに言われたということは正しい選択と決定の機会を与えてくださったのに違いありません。ペトロは鶏が鳴くことを聞いてイエス様が彼に予告なさるお言葉を想起しました。そして、イエス様に向いて心を移しました。しかしイスカリオテのユダはそうしませんでした。彼はイエス様に帰って哀れみを受ける方を選ばずに退いて首をくくって死にました。

人が自ら決定して努力したことは自分の生涯にある全ての事の中でとても微々たる部分であり、残りは自分の意志とは関連のないことであります。しかし、このような与えられた運命を変化させる驚くべきな運命で生きる道があります。その道が聖書に啓示されています。イエス様がペトロとイスカリオテのユダに彼らの前に起こる事事を予告してくださったのように聖書には私達の前に起こる事事を予言したお言葉が記録されています。誠に驚くべきでありがたいことは聖書に記録されたお言葉を私達が信じて従うと私達各人が処されているいかなる運命的な都合と状況であっても全て有益で福があるようにすることができるという事実です。

イエスキリストを信じると驚くべきで偉大な身分と地位が付与されます。新たな被造物になり神様の子になります。天国市民になります。神様を愛してその思い通りに生きていくと万事が益になります。福音を伝えて主の事に励むと主の称賛と賞を受けるようになります。主イエスキリストの御名によって父親でおられる神様に求めると時機を得た助けを受けます。この全てのことは私達の自由意志で選択して決断することができることであります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

# 感謝に関して分類される三つの部類

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

感謝を感じて表現することは誰もできる事です。しかし実際にすべての事に感謝する人は多くないです。 感謝を感じて表現する事に上手な人は非常に賢くて福がある人です。 聖書は聖徒がすべての事に感謝を感じて表現しなさいとこまごまおっしゃっています。 そして実在的で模範的な例が何回、多くの形で記録されています。 それなのに人々がこれを実践しない理由は堕落した人間の本性のためです。 だからすべての事に感謝を感じて表現しようとすれば積極的な演習が必要です。 今日は感謝に関して三つの部類の人々に対してよく見ます。
□□□, □□□ □□□□ □□□□□ □□□ □□□ □□□□. □ □□□ □ □□□ □□□ □ □ □□□□.

**第一は、感謝を感じるとか表現するのに鈍くてけち臭い人がいます。 その理由を何種類で分けて見られます。**

第一、感受性が退歩したせいです。
人が年を取りながら感受性が低下されることは自然的な現象です。 しかし年寄りになっても喜怒哀楽を感じて表現するのが若者のような人がいる一方に無感動して無表情になる人もあります。 肉体の各機関が使わなければ衰退するように感謝を感じる感受性も使わなければ衰退します。 だから感謝を感じて感謝を表現するのが習慣化になるように力をつくさなければなりません。
第二、感謝を感じるとか表現するのに鈍くてけち臭い理由は自分がいただく恵みを当たり前なことで思うからです。
自分が苦労することは当たり前の義務に思っても、他人の手数によって自分のいただく恵みは皆奇妙な事で思ってありがたさを感じて感謝しなければなりません。
第三、感謝を感じるとか表現するのに鈍くてけち臭い理由は他人の助けに対して過小評価するからです。
だから他人の好意と助けに対して過小評価しないで感謝しなければなりません。

**二番目は、不平の多い人がいます。**

あるよりもないことを思う人には不平が去らないです。 神様の口約束に対する信仰が欠乏されれば恨みと不平をするようになります。 こんな事実を証明する一番著しい例えば荒野を行進したイスラエル子孫が見せてくれた態度です。
旧約聖書の民数記に記録されるのを “わたしの栄光と、わたしがエジプトと荒野で行ったしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞きしたがわなかった人々はひとりも、わたしがかつて彼らの先祖たちに与えると誓った地を見ないであろう。またわたしを侮った人々も、それを見ないであろう。” (民数記 14:22,23) しました。 ここで指摘した十番がどんな事件なのかをよく見ます。
第一、紅海の海辺に帳幕を張っている途中エジプト軍隊の追い討ちを受けた時です。
エジプトを離れ去ったイスラエル民は紅海が彼らを塞いでいる時エジプト軍隊の追い討ちを受けました。 彼らは恨みながら泣き叫びました。モセはこの状況に対して神様がもうおっしゃったお言葉を思い出しました。 モセが神様のお言葉どおり彼の手を海の上に突き出すと神様が大きい東風で一日夜の間に海水を退かせて水が割れたしその間の地が乾きました。 イスラエル民が海の中に通る時水が彼ら左右に壁を成していました。 あの時エジプト人々が追撃し始めました。 ところへの馬と馬車と騎兵も海の中に入って来ました。 モセが神様の指示どおりまた手を海の上で突き出したら海が元々どおり回復して流れたし追撃したところへのすべての軍隊は沈んで死んでしまいました。 神様が彼らが当面するようになる事をあらかじめ知らせてくださったしその結末までおっしゃってくださったのに民はそのお言葉を信じなかったから恨みをこぼしておいたのです。
第二、スル荒野のマラであった事です。
スル荒野でイスラエル民が三日道に行ったが水を探すことができなかったり水を見つけたが苦い水なので飲むことができなかったです。 民がモセに向けて恨むとモセが神様に祈ったし神様のお言葉どおり木を投げたら飲むことができる水になりました。
第三、新荒野でいた事です。
イスラエル子孫が新荒野でモセとアロンを恨んで言うのを “イスラエルの人々は彼らに言った、「われわれはエジプトの地で、肉のなべのかたわらに座し、飽きるほどパンを食べていた時に、主の手にかかって死んでいたら良かった。あなたがたは、われわれをこの荒野に導き出して、全会衆を餓死させようとしている」”( 出エジプト記 16:3) しました。
第四、ルビディムであった事です。
イスラエル子孫がルビディムでモセを恨みながら言うのを “あなたがどんな理由で私たちをエジプトで導き出して私たちと私たちの子と私たちの家畜も喉が乾いてたまらないようにするのか?” としました。 神様がモセに “あなたの杖を手に握ってお前は盤石を打ちなさいそれではその盤石から水が私と民が飲むことができるでしょう。” としました。 モセがそのまま行いました。
五番目、民が金の子牛の偶像を作って仕えた事件です。
モセが神様の呼ばれを受けて市内山の上に上がりました。 モセが山から下るのが引き延びになると民が金の子牛を作ってそれを崇拝しました。 これによって神様が甚だしく怒ってイスラエルを所滅しようと思ったがモセの切実な訴えをきいて災いを下げなかったです。
六番目、ダベラであった事です。
イスラエル子孫が市内山を発って進行した中に彼らが悪い言葉で神様を恨みました。 神様がきいて震怒なさってエホバの火が彼らに付いて陣営の終りを燃やさせました(民 11:1～3). モセが神様に祈ったら火が消えました。
七番目、ギブロッハッダアワであった事です。
イスラエルの中に混ざって暮す群れが貪欲を抱いたらイスラエル子孫も泣きながら言いました。 “また彼らのうちにいた多くの寄り集まりびとは欲心を起し、イスラエルの人々もまた再び泣いて言った、「ああ、肉が食べたい。われわれは思い起すが、エジプトでは、ただで、魚を食べた。きゅうりも、すいかも、にらも、たまねぎも、そして、にんにくも。しかし、いま、われわれの精根は尽きた。われわれの目の前には、このマナのほか何もない」”(民 11:4-6). 神様がうずらを放してイスラエルの 宿営に落ちさせました。 しかしうずら肉がまだ民の歯にかまれる前に神様が震怒なさってその民を非常に大きい災いで打ちました。
八番目、バラン荒野のカデスバネアであった事です。
かデスバネアに至るとモセは１２の忍者をガナアン地に行かせて 40 日間その地を探知してその結果を民に報告するようにしました。 ヨシュアとガルレブを除いた十人は彼らが探った地を悪評して否定的な報告をしました。 これをきいて民が甚だしく気を落としてモセと神様を恨みながら一夜中に泣きわめきました。 ヨシュアとガルレブが民の考えと心を顧みようとつくしたが返って民はヨシュアとガルレブを石で打ち殺そうと思いました。 震怒なさった神様が１０人の忍者を殺しました。 そして民はその日から 38 年間を荒野で放浪させました。
九番目、モセとアロンに与えた神様の委任権威に対抗した事件です。
ゴラとタダンとアビラムは 250 人族長を同調者が会ってモセとアロンの指導権に対抗しました。 この反逆事件は神様の直接的な介入で押えられました。 ゴラとタダンとアビラムは彼らが立っている地が割れてその中に落ちて生き埋めされました。 250 人の族長は彼らが持った香炉で火が出て燃えて死にました。 ここに抗議した彼らの追従勢力は染病にかかって万四千七百人が死にました。
十番目、火のへびにかまれ死んだ事件です。
イスラエル子孫がエドム地を避けて荒野道に行く時神様とモセを恨みました 火のへびを民のうちに送られた。へびは民をかんだので、イスラエルの民のうち、多くのものが死んだ。民はモーセのもとに行って言った、「わたしたちは主にむかい、またあなたにむかい、つぶやいて罪を犯しました。どうぞへびをわたしたちから取り去られるように主に祈ってください」。モーセは民のために祈った。そこで主はモーセに言われた、「火のへびを造って、それをさおの上に掛けなさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見るならば生きるであろう」。モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。
このようにイスラエル子孫が恨み不平を言ったことは神様に対する信仰の欠乏によったのです。神様のお言葉に対して信仰で生きて行く人に必ず現われる現象があります。 それはすべての事に神様に感謝する態度です。

**三番目は、すべての事にありがたみを感じて感謝を表現するのに積極的な人がいます。 こんな人から見られる特徴があります。**

第一、日常的で平凡なことで感謝の理由を捜し出します。
毎日の食事は日常的で尋常な事であるがその中感謝する理由を捜してみれば食欲があることと食べ物があるというのを思うようになります。
このように私たち周辺を見回れば感謝することが数えきれないほど多いです。
第二、自らあることを推し量って言うのを楽しみます。
神様が私たちに恵みで下さるものなどを推し量って見てください。 収集家のようにそれらを収集して心の中におさめてください。 そしてこれを楽しみながら感謝してください。

聖徒の皆さんはすべての事にありがたみを感じて感謝を表現するのに積極的な人の部類に属するようになるように願いします。